

関係人口を創出して農村の活性化にチャレンジ！

あきたで生きる～秋田の地域資源を活用し、秋田で暮らし、秋田を活かす取組～



あわじ
(山本郡藤里町)
代表 佐々木 規之(のりゆき)

経営概況

経営形態 | ゲストハウスあわじ商店経営
| ふじさとマイクロファーム経営(10 m²)
| 畑 0.5a、山羊3頭
労働力 | 3名
販売先 | マイクログリーン: 秋田市及び首都圏のレストラン



あわじ商店

佐々木代表は、東京都から深刻な高齢化と人口減少に直面している藤里町に移住し、「ゲストハウスあわじ商店」をオープンして田舎暮らしや農村に興味を持つツアー客を呼び込み、藤里町の魅力を発信しています。加えて近年関心が高まっているマイクログリーンを生産・販売するなど、新しい取組にも挑戦しています。

▶ きっかけ

大館市出身の佐々木代表は、28歳の時に勤めていた会社を退職後、東京都で様々な業種を経験し、現在は、ITに関する事業を個人で立ち上げています。東京での暮らしも約10年が過ぎ、漠然と何か新しい事にチャレンジしたいと考えていた頃、周囲の友人達が自分の生まれ故郷の秋田県についてほとんど認識がなく、その知名度の低さに愕然としました。そこで、秋田県の農村に集える場所を作り、沢山の人を呼び込んで、農村の良さを知ってもらおうと県内への移住を決意しました。移住先として海、山、川などが近く、自然豊かで住居環境も整っている藤里町に決め、高校の同級生と2人で令和4年6月に藤里町大沢地区へ移住しました。



●ゲストハウスあわじ商店

▶ 取組

藤里町に移住して気づいたことは、地域住民が昼でも夜でも気軽に集える場所が少ないことや世界遺産白神山地の麓であるものの、外からの訪問客も少なく賑わいがないことでした。そこで、元店舗兼住居を令和5年7月に改築し、農泊施設「ゲストハウスあわじ商店」としてオープンし、地域住民との交流や季節ごとの田舎暮らし体験のイベントを開催しています。



「ゲストハウスあわじ商店」内の宿泊室

また、農泊経営を下支えするため、ゲストハウスの一室で近年日本でも関心が高まっている※マイクログリーンを生産し、秋田市や首都圏のレストランへ販売を行っています。高評価で口コミ等により注文が増えており、生産拡大したいところですが、生産に手間がか

かり人手も足りていないことが課題とのことでした。



ゲストハウスの一室で育つマイクログリーン

▶ これから

ゲストハウスあわじ商店を拠点に全国各地から人を呼び込み、地域住民との交流を通じて農村における関係人口を増やし、移住に繋がる活動をしていきたいと思っている。また、藤里町は耕作放棄地が増加傾向にあるので、それらの農地を活用して有機農産物の生産にも取り組んでみたいと熱い思いを語っていただきました。

※マイクログリーンとは、発芽して1～3週間くらいの若芽野菜を指し、1種類の野菜を指した言葉ではなく、様々な若芽野菜の総称です。

(●印写真: あわじ提供)

